

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p> <p>日程第1 協議</p>	<p>それでは、これより令和2年度第11回臨時教育委員会会議を開会いたします。</p> <p>本日は、5人の委員が出席しているため、この会議は成立しております。会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、泉委員と遠藤とします。</p>
<p>・協議 令和3年度（2021年度）使用中学校教科用図書採択について（数学・英語）</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議「令和3年度使用中学校教科用図書の採択」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>廣瀬泰幸 教育センター 副所長</p>	<p>協議について説明します。令和3年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。そのうち、本日は「数学」「英語」の2種目についてご協議をお願いします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をさせていただきます。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>まず、「数学」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明します。 《坂元ゆみ 研究記録員 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明します。 《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議に入ります。最初に、私から意見を言います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>最初のページ数、問題数の一覧についてです。啓林館は赤く囲んでますが、この数字を見る限り特徴的ではありませんが、なぜ赤いのですか？</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>申し訳ありません。補充問題の数が違っています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>啓林館が最初から有利に見え、フェアではありません。表を作り直して見せてください。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>観点1で説明されたヒストグラムについてです。階級を変えるヒストグラムが活用されていればいいのでしょうか。例えば大日本の242頁。ヒストグラムが4つのっており、階級の幅を変えてありますが、どれも一山です。どれが有効か判断できる場面がなく、「階級の幅を考慮することが大切です」で終わっています。これ以上学習が深まらないでしょう。それに対して、教出の243頁、ヒストグラムの階級の幅を変え、図1と図3で比較す</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ると、図3でふた山になっています。次のページに進むと、二つの山が間いになっており、「⑥理由として考えられることを言いなさいとあります。」この考えることのできるスタイルとなっているのが、啓林館と数研です。ところが、大日本と東書について、東書はばらついているのではっきりしていません。つまり、大日本と東書は説明で◎と報告があったが、私は○としか思えないのです。</p> <p>また、巻末の付録について、啓林館が一番優れているように思います。</p> <p>付録に関して、優れている点を説明してください。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>啓林館の付録をご覧ください。どの教科書にも付録はついていますが、使う立場で考えると、一番見やすく、勉強しやすい形式だと感じます。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>練習問題と章末問題、補充問題について数字を説明されましたが、教科書でばらつきがあります。学校の先生が教える場合に、数はどの部分が多い方がやりやすいのでしょうか。また、生徒にとってよいのでしょうか。教えてください。</p> <p>また、現在使われている教科書は啓林館ですが、展示会意見の中で、「内容が変わった、改善された」という先生の見解があります。具体的に教えてください。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>1点目について、問題数が多ければいいわけではないと考えています。一つは、それぞれの生徒の習熟度、興味・関心に対応するためには、問題の質的な差があります。難易度をバランスよく配置されていることが一番大事であり、問題数の多いものをピックアップしたが、調査研究する上では、難易度を大切にしました。</p> <p>2点目について、デジタル、ウェブ教材に教科書がリンクしているのが特徴的な進化、改善点です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>表で、問題数が多いのがどこどこですと言っておきながら、問題数は問題ないというのはどうでしょうか。時間制約がある中で、大事なことを見せてください。問題数についての説明は、無駄だったということでしょうか。</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>練習問題、章末問題、補充問題を調査しました。補充問題の数が違ったので修正します。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>正しいものを報告してください。英語を先に行い、訂正し直した上で、改めて協議を行います。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>続いて、「英語」の教科書の調査結果について、研究員の代表がご説明をいたします。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>《森祐一 研究記録員 説明》</p> <p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。</p>

	<p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
岩本晃代 選定委員長	<p>ただ今の報告につきまして、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断いたしました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>それでは、協議に入ります。英語について、ご意見・ご質問ありましたらお願いします。</p>
西山忠男 委員	<p>ご説明はよく分かったのですが、グラマーのページが気になっています。2年と3年の教科書がそろっていないので同じレベルで比べられないのですが、どの教科書もよく工夫されて見やすいと思います。研究員の方でグラマーに関して、どういう特徴があるとか、どこが優れているとか評価は何かございますか。</p>
須佐美徹 研究員代表	<p>どこもよく工夫されていて、大差はなかったように思います。ただ、学年で扱う文法事項の数に差が多少ありますが、学習方法や使い方で対応ができるのではないかと、研究員の中では、バランスを重視したほうが良いという意見がありました。</p>
西山忠男 委員	<p>光村3年の40頁は、よく考えられて見やすいなという印象を受けました。啓林館の3年の60頁で見ると、主語、動詞、目的語の説明が下にあり工夫されていて、いいなという印象です。どれもいいのですが、その二つが、特に印象に残りました。気になるのが、1年生からどの教科書も省略形が多用されているが、その点についてどこかで説明してあるのですかね。ちょっと調べてみても見つからないのですが、生徒が混乱するのではないかと思って。省略形の説明がちゃんとないとなされないと、理解できないのではないかと思うのだけれども。</p>
須佐美徹 研究員代表	<p>そこは調査研究員では確認できていません。今までの教科書でも見当たらない部分でした。ただ、授業の中では、教師側が説明するようにしています。そのような対応ができると考えています。特に大きな差異は見つかりません。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>教科書展示会の意見で東書は大きすぎて、ふさわしくないという意見がありましたが、その点については何か。</p>
須佐美徹 研究員代表	<p>調査研究員でも大きいサイズになっているのは見やすいという意見もありましたが、情報量が多すぎるのではないかと、子どもたちも焦点化しにくいのではないかと意見もありました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>では、扱いにくいという大きさというのものもあるかもしれませんが、1ページに書いてあるのが多いということでしょうか。分かりました。</p>
泉薫子 委員	<p>どの教科書も、工夫されていてバランスよく教えられる工夫がなされていたと思うのですが、やり取りをする工夫、対話的な学びにあたると思うのですが、そこにばらつきがあるように思います。その点に関しては、光村は良く工夫されています。東書、三省堂、光村で工夫されていると</p>

<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>ころや違いがあれば教えてください。</p> <p>どの会社もよく考えられておられると思います。光村の巻末にあたる部分で、レッツトークというものがあるのですが、毎時間の帯活動としても、スモールトークとしても使いやすいという点で注目したところでもあります。他の会社でも使用してありますが、光村は3学年あり、学年に応じてやり取りの工夫がされており、研究員の中でもよく工夫されていると注目したところです。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>学校からの意見に、教科書によって新出文法にばらつきがあり、教科書の違う転出入は既習事項が異なり難しいのではないかというのがありましたけれど、その点については、やっぱり難しいのかというのが1点。もう1点は、ストーリー性の多いところと少ないところがありましたけれど、もう少し具体的に教えてほしい。そして系統性、ストーリー性があることが、結果どんな点がいいのかを説明して欲しい。</p>
<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>どこも新出文法はおさえてあるが、1年のところにたくさんの事項が入っているものがあります。その点で、基本文の提示の仕方で抵抗を感じられた教職員もいたかもしれません。光村が特にストーリー性が重視されていたのですが、スライドで説明した1年のユニット6で、ティナが病気をして、88頁でおじいちゃんが心配している。さらに2年で、そのおじいちゃんのところ遊びに行くというものがあります。さらに、ユニット3には、夏休みに初めての一人旅として、光太が遊びに行くというものが出てきています。また、バスケットボールが得意なハジンという生徒が中心となって、バスケットボールの話題があるが、バスケットを苦手と思っている子も練習をして、2年のユニット2でバスケットボールのトーナメントで勝つというものが出てきています。ストーリー性があると、子どもたちが身近な内容で共感しやすいという点で私たち研究員も注目したところでもあります。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>先ほどの泉委員の意見と関連するのですが、巻末にどの教科書もいろいろな資料がついているのですが、教出は非常に特徴があって、1年という132頁に赤いシートがついていて、これを切り取って、自分で自習できるようになっている。2年にもあるので、多分3年にもあるでしょうが、非常に良いと思うのだけれども、これは評価されないのでしょうか。</p>
<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>家庭学習につながるという点で、ユニークなものだと調査研究員の間でも話題になりました。補充の部分と発展の部分の2点でどうかということを考えて、先ほど示しました評価となっています。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>それぞれに特徴があるので、よく見ないといけないのですが、教出はすっきりしていていいと思うのです。比較して、東書の1年44頁、疑問詞のところはよくできていて、情報量が多く、いつ、どこなど勉強するポイントがよく出ていると思います。一方、教出が情報量は多くないが、見やすく書いてあるのでいいと思うのですが、子どもたちにはどっちがいいのか悩ましい。教える立場としてはどうなのでしょう。</p>

<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>各社、工夫をされていて、単元ごとにまとめてあるものもあればいくつかの単元でまとめてあるものもありました。教える側としては、すっきりまとめてある方がよいと思います。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>教出の1年の83頁と東書の44～45頁を比べてみると、差があるが、両方捨てがたい。学校現場で指導することを考えるとどうかを聞きたいのですけれど。</p>
<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>まとめに関してはすっきりしていた方がよい。文法については単元で説明がしてあるので、まとめとしては、すっきりと振り返りができる方がよいと考えます。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>質問ですけれども、光村の巻末でレッツトークがあるということですが、その場で対話をする力を伸ばすという経験は必要だと思うのですが、光村の教科書にしかこういうものはないということでしょうか。その場で対話を深める工夫について、他の教科書には見られないのでしょうか。また、力のある子はさらに読みたいと思う子もいると思うのですが、そこに対する配慮がしてある教科書があればどれか教えてください。</p>
<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>学習指導要領の改訂で即興性が大事になっていまして、どこも話のトピックなどをユニットごとに設けてあったりします。帯活動が大切だと感じていて、そこに関して、レッツトークは良いと思っています、また、ストーリーテリングという自分の言葉で表現しなおす活動も開隆堂と光村に入っています。さらに読み進めたい子には、巻末にFurther readingという長文などが入っている教科書がほとんどです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>私の方から。新しい学習指導要領では、基本的に中学校の英語は英語で教えるということだが、英語で進行して教えやすい教科書はどれでしょうか。</p>
<p>須佐美徹 研究員代表</p>	<p>特にその点では、どの教科書が良いというのはありませんでした。英語で子どもたちがやり取りし、発表をするという内容が載せてある教科書がいいという意見は出たところです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>授業は英語で進行するという点だと思いますが、その点で、良く工夫されているのは三省堂だと思います。日本語が目立たなくされていて、英語が目立つように工夫されている。啓林館は1年のユニットは、タイトル全て日本語。啓林館と開隆堂は、その点で若干不十分だなど。光村はタイトルこそ英語だが、パートは日本語で書いてあり、日本語が目立つ構成になっている。英語で進行する授業においては三省堂だと思いますが、それが全てではないということでしょうか。基本的なことですが、最初のプレゼンについて、英語で話すことには積極的ということですが、主体的な学びにおいて、熊本市の子どもは積極的に自分の意見を言わないという他教科のプレゼンが結構多かった。積極的でなくてもそうでなくても、主体的な学びが必要であると考えるのであれば、この点については、実態はあまり関連がないのではないのでしょうか。主体的なところができていないから、それで教科書を選ぼうというのが他の教科の理屈であったようですが、他</p>

		<p>の教科との整合性についてはどのように考えているのでしょうか。</p>
須佐美徹	研究員代表	<p>さらに積極性を高めるということでもあります。100%の生徒が積極的にコミュニケーションをとろうとしているというわけではなく、特にアドバイスを求められている時に答えられていないという実態がありました。簡単なやり取りでは積極性が見られるが、より高度な発信で無回答が多いなど、積極性に課題があると感じています。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>全体に関することになりますが、教育センターに聞いた方がいいのかな。例えば数学のプレゼンでは、数学が好きという子が少ない、だから主体的に学ぶことができていないからその観点で選んだとありました。各教科で主体的という観点で選んでいても、ある教科ではできていないから選ぶ、ある教科ではできているからさらに伸ばすために選ぶなど、視点が違うようですが、教育センターとしての全体の見解はどうか、教えてください。</p>
廣瀬泰幸 一副所長	教育センタ	<p>教科の特質にもよりますが、全体的に自分の思いを伝えるというのは、今までの調査の結果を見ても、本市の子どもたちにとって頑張る余地があるところとらえているところです。英語は子どもたちが大分力をつけていますが、相手のことを慮って、状況に応じ対応するコミュニケーション力が求められているので、さらに進めていかないといけないと考えております。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>小学校は積極的に表現し発表しているようです。だからこそ、グラマーや単語などの力を身につけることが、さらに力を伸ばすためには大切だという考えもあると思うのですが。</p>
廣瀬泰幸 一副所長	教育センタ	<p>基礎的な部分があるからこそ、積極的な部分も出てきます。両輪と考えています。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>今回の選定に関してはどちらかというそちらの方に重点を置いているということと考えていいですね。できているからさらに伸ばすでも、できていないからその力をつけるでもどちらでもいいと思うのです。英語としては、できているからこそ、それを更に伸ばしていくということでもいいですか。</p>
須佐美徹	研究員代表	<p>はい。そうです。</p>
遠藤洋路	教育長	<p>他に意見はありませんか。ないようなので、以上で「英語」については、終了します。</p>
岩本晃代	選定委員長	<p>先程、修正が完了した協議の再開をお願いします。</p>
出崎友英	研究員代表	<p>改めて、協議をお願いします。</p>
坂元ゆみ	研究記録員	<p>先程使用した表は、補充問題の数値が間違っていました。補充問題は、巻末に準備してあり、基礎・基本から発展問題が含まれています。先程のもの</p>

<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>は、基礎・基本のみの数値、改めて、発展、応用、活用も含めて数値を示しています。そして、1番多い数値のみ赤丸としました。</p> <p>数が多ければいいわけではないと報告された点に関して、どうでしょうか。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>この表を見ると、練習問題は教出が多いです。調査研究の中では、教出は平易であるものが多く並んでいることを懸念しました。評価としては、数だけではなく、そこを含めて評価しました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>調査結果一覧より、観点5、観点6、観点7は、数学ではなかなか差異をつけるということが難しいということでしょうか。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>先程の議論の中で、巻末資料の充実を述べました。例えば、啓林館の1年、45～46頁を見ると、ヒストグラムを観察しようという題材があり、これは、観点1にあったものであり、それを補完する詳しい説明が載っています。これを見ると、ヒストグラムの意味が分かり、深まる構成になっています。こういうところが評価できます。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>啓林館を見ると、「説明しよう」、「話し合おう」がいくつかあります。他社にもたくさんあるのですか。例えば1年135頁に「説明しよう」、137頁に「話し合おう」があります。自分の子どものころはなかったので、他の科目は見られたが、数学では他社にもありますか。話し合ったり説明し合ったりするような学習は大事だと思います。分かったような気がします。自ら表現した時に分かっていないことに気付くこともあります。このような学び方がありますか。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>新学習指導要領の観点に対話的な学びがあります。7社の教科書ともに、生徒同士、生徒と教師、先人との対話を意図してよく編集されています。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>感想です。どの教科書も、章の最初に学ぶものについて、社会的な事象などいろいろな身近なものから掲載されており、数学というものと身近なものとの結びつける工夫があります。啓林館は、その後の章末問題でさらにその身近な問題とのつながりがある工夫が見られました。様々な物事を数学的に見る、その問題を作っているところもよいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>東書は各章のタイトルが、「○○しよう」となっているのが特徴です。例えば、「文字と式」であれば、その文字と式を学ぶことによって何を目的としている、何ができるようになるかが示されていていいと思います。子どもの立場に立ったら、どこまで実効性があるかは分かりませんが、「文字と式」などより良くなっています。</p> <p>啓林館について、西山委員から指摘がありました部分について、「自分から学ぼう編」は向きを変えて使うようになっています。使いやすいのでしょうか。意図はあるのでしょうか。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>現行の教科書は、二つのタイプを別冊にして作ってあります。それはそれで意義があります。「生徒が忘れて持ってこない、紛失する。」という現場</p>

	<p>の声が生かされて、今回、合冊にされました。区別がつくようにというのが一つの意図です。また、縦開きができると、生徒の机で傍らにおいて、A4のプリントやノートを置いて学習できるというねらいもあります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>デジタルコンテンツについて、何かありますか。</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>表の部分で少し説明しましたが、学図と啓林は、学習するページにあります。それ以外は巻頭、単元の始めにあるので、1回1回戻ってみると大変ではないかと思います。よって、学図と啓林は、使いやすいです。</p> <p>内容は特徴があります。東書は、他教科とのリンクが多いです。大日本は、社会とのつながりが大切にされ、職業のインタビュー動画があります。学図は、プログラミングが各学年に搭載されています。教出は、学びのマップがあり、円の書き方や平行線が動画で見ることができ、根本的なところを身に付けさせる工夫があります。啓林館は、章末問題など一つ一つの問題の解説があります。数研は、補充問題として計算練習を随時できるように搭載されています。日文は、練習問題が搭載され、何度もできるようにコンテンツを充実させてあります。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>デジタルコンテンツは、数学に関しては、グラフなどをビジュアル的にみる、直感的に理解できる点で有効であると思います。そういう観点からのよさを紹介してください。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>指摘いただいたところは、学びを深めるのに有効です。特に、立体図形を把握する際、実物を持ってくることも大切ですが、球の体積の求め方などなかなか実験できないものを動画でアップしている会社、パソコンで実物と思えるような見せ方をしているものもあり、そういったものを提示していくのは有効です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>優れているのはありますか。</p>
<p>出崎友英 研究員代表</p>	<p>工夫されているが、教科書のいろいろな場所に配置されているのは、啓林館です。コンテンツの数も多いです。</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>動画の説明は、音声も入れてあるのが啓林館の特徴です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>1つ見せてください。</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>視聴の通り、1杯目、2杯目と書いてある会社もありました。子どもたちが注視してみることができるのは、啓林館のように、数えて考えさせる方がいいと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>啓林館の1年の203頁、これを動画で見たのですか。</p>
<p>坂元ゆみ 研究記録員</p>	<p>そうです。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>感想です。導入はどこも工夫してあると感じました。先程提示していただいた文字の導入、それから、平方根の導入ですが、正方形の面積が半分</p>

	<p>ということで教えるのが一般でしたが、啓林館はピザを焼いて半分にするにはどうするかとあって驚きました。身近なところから、数学をもってくるのがいいと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>他に意見はありませんか、ないので、以上で「数学」について終了します。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>すべての協議が終わったので、よければ、11日の臨時教育委員会で採択を行いたいのですが、いかがでしょうか。</p> <p>(異議なしの声)</p>
遠藤洋路 教育長	<p>そのようにします。</p>
松島孝司 部長	<p>昨日、美術の資料集に関して、学校訪問の参観から、あまり使用されていない印象があると述べました。美術の資料集は全中学校42校のうち、34校採用されていました。活用内容としては、主に、ポスターを作るときのレタリング見本、ポスターカラーの使い方、教科書にない資料を補足することでした。研究員から報告を受けました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>よろしいですか。以上で本日の協議を終了します。</p>